

グループホームあすか

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300784		
法人名	社会福祉法人敬和会		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	栃木県下野市川中子1465-1 (電話) 0285-40-0102		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年8月8日	評価確定日	平成19年9月10日

【情報提供票より】(平成19年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤 人, 常勤換算8人	
		常勤8人, 非常勤 人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代-実費(2,000円~) ・おむつ代-実費 ・光熱費-21,000円 ・共益費-21,000円 ・こづかい-10,000円以内
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成19年7月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下都賀郡市医師会病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、国道、市役所、市の運動公園等が近くにあり、畑が広がり住宅が立ち並ぶ静かな場所に位置している。ホーム名、2つのユニット名は万葉の時代を感じるものになっており、歴史ある当地を反映している。職員は明るく、膝をおって入居者に話しかけるなど、優しい雰囲気が入居者に接している。入居者同士の助け合いなども見られ、畑仕事に精を出す方がいたり、リビングで入居者同士で話をしながらテレビを見たりと、「共同生活をしている」という雰囲気が感じられた。敷地が広く、桜、紅梅・白梅などの草木がふんだんに植えられ、入居者・職員、ボランティアによる手入れが行き届いている。医師である理事長は週に1回回診し、またオンコール体制が整っており、医療的な心配事をいつでも相談できる体制になっている。半年ごとの職員個人目標を立て、目標に対する自己評価も行うなど、管理者はじめ職員は、質の向上に意欲的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>評価の機会を前向きにとらえており、前回の外部評価の結果を踏まえて、広報誌を発行したり、温湿度計をつけたりと具体的な改善に努めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、全職員で項目を分担して記入し、管理者・計画作成担当者がそれぞれのユニット分を確認した。職員ごとの自己目標を定めており、そこには自己評価を記入する欄も設けている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在までに開催できていない。この10月に開催する予定としている。メンバーは、市、地域包括支援センター、自治会、民生委員、家族代表などを考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問の際に、入居者の暮らしぶりや健康状態などを伝えている。おこづかいを預かることにしていることから、少なくとも月に1回は家族に電話もしている。預かり金は出納帳で管理し、家族に確認していただいている。7月から広報誌(年3回発行予定)を作成し、家族に送付することとした。家族の訪問の際には声かけをして意見などをいただけるよう努めている。重要事項説明書にホームの受付窓口(2名)と市の高齢福祉課の連絡先を明記している。無記名式で家族アンケートを実施し、それを踏まえて家族への情報提供を充実させていこうと考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会しており、回覧板などもまわってくる。近隣の中学生が体験学習などで訪ねてきたり、ハーモニカ、ちぎり絵、おし花等々の数多くのボランティアが訪ねてきている。近隣のたばこ屋(雑貨屋)に買い物に行き、30分ぐらい話をしてきたりもする。月に1~2回友だちが訪れる入居者もいる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生命の尊厳、人格の尊重を基本として、地域との関係も踏まえた理念、運営方針を定め、大きく複写して玄関に掲示している。また、事務スペースのホワイトボードにホームとしての短期目標と半年を単位とした職員の目標を掲示している。	○	理念、方針の中のキーワードを分かりやすい言葉として抜き出してみるなどして、ホームとして大切にしていることを説明しやすくすることなどの検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務や、職員会議、スタッフ会議等の会議の席などで理念、運営方針の共有に努めている。また、事務スペースのホワイトボードにホームとしての短期目標と半年を単位とした職員の目標を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、回覧板などもまわってくる。近隣の中学生が体験学習などで訪ねてきたり、ハーモニカ、ちぎり絵、おし花等々の数多くのボランティアが訪ねてきている。近隣のたばこ屋（雑貨屋）に買い物に行き、30分ぐらい話をしてきたりもする。月に1～2回友だちが訪れる入居者もいる。	○	車で5分ほどの距離にある法人の特別養護老人ホームで地域の方を招いて納涼祭や相撲の親方を招いての餅つきなどを実施しており、入居者も参加している。敷地が広く、梅、桜などがふんだんに植栽されていることから、ホームとしても地域の方に立ち寄っていただけのような、働きかけをしていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の機会を前向きにとらえており、前回の外部評価の結果を踏まえて、広報誌を発行したり、温湿度計をつけたりと具体的な改善に努めている。今回の自己評価は、全職員で項目を分担して記入し、管理者・計画作成担当者がそれぞれのユニット分を確認した。職員ごとの自己目標を定めており、そこには自己評価を記入する欄も設けている。	○	管理者は質の改善に意欲的である様子が見え、入居者・職員とも相談しながら、少しずつ取り組みを進めていくことを期待したい。また、自己評価はそれぞれのユニットで丁寧にまとまっており、項目によっては差異も見られる。その差異について職員間で話し合いを持つなど、自己評価も有効に活用していくことに期待したい。

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに開催できていない。この10月に開催する予定としている。メンバーは、市、地域包括支援センター、自治会、民生委員、家族代表などを考えている。	○	地域との関係性を深めていく意味でも、メンバー選定も含めて、ホーム・地域双方に有意義な運営推進会議を実施することを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請などで市に行くことはあるが、今のところ行き来する機会が少ない。	○	広報誌作成の取り組みも始まり、また近く運営推進会議の実施も予定されていることから、今後、積極的に市に情報を発信し、市と一緒に地域の認知症ケアを推進していけるような関係づくりをしていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際に、入居者の暮らしぶりや健康状態などを伝えている。おこづかいを預かることにしていることから、少なくとも月に1回は家族に電話もしている。預かり金は出納帳で管理し、家族に確認していただいている。7月から広報誌（年3回発行予定）を作成し、家族に送付することとした。	○	広報誌を発行したことから、異動時も含めて職員紹介なども掲載していくことを期待したい。また、職員の担当制も取り入れていることから、例えば毎月の請求書の発行の際に写真などを添えてお便りを送付するなど、更なる充実を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の際には声かけをして意見などをいただけるよう努めている。重要事項説明書にホームの受付窓口（2名）と市の高齢福祉課の連絡先を明記している。無記名式で家族アンケートを実施し、それを踏まえて家族への情報提供を充実させていこうと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動や個人都合での離職はあるが、その際も十分な引継ぎをするなど入居者への影響を少なくするよう努めている。職員の担当制を取り入れ、2ヶ月に1回は担当する入居者を変えている。両ユニット間は中廊下でつながっており、食事の際のおかず運びや入浴等で入居者、職員とも行き来している。申し送りもユニット合同で実施し、入居者全体の様子を把握するように努めている。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修には計画的に職員を参加させている。外部研修に参加した場合は、復命書を作成することとなっており、資料を回覧したり職員会議で発表するなどの機会も設けている。ホーム独自に外部講師を招いて口腔ケアに関する勉強会を実施したこともある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、会議や研修に参加し、情報収集に努め、他のホームでの取り組みを参考にしている。市内にもう1ヶ所グループホームがあり、1回ずつではあるがお互いに見学する機会を持ち、運営の参考にしている。	○	管理者は、職員が他ホーム職員と交流する機会を持つと良いと考えている。運営者や他ホームとも相談しながら、ネットワークづくりの可能性を探っていくことを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあったときには、本人・家族にホームに来ていただき面談している。日中の時間帯のお試しも実施している。入居してから慣れるまでは、気を配って声かけをしたり、入居者同士で友達の関係性ができるように配慮したり、家族に電話をして相談したりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は明るく、やさしい雰囲気で入居者に接しており、郷土料理など入居者から教わることも多い。また、食事の後片付けの場面などを見ている、「ありがとうございます」と声をかけたりしていた。入居者同士で支えあう姿も見受けられた。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の担当制も取り入れながら、日々の生活の中で本人の希望や思いを把握するように努めている。困難な場合には家族から情報を得たり、本人のしぐさなどからおもんばかるように努めている。毎月1回サービス担当者会議を開催し、1名の入居者について検討を行い、職員の気づきなどを会議録に残している。	○	職員の気づきなどを効果的に計画に反映させるためにも、検討しているアセスメントやモニタリングの手法を確立することに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、必要によっては医師の指示なども踏まえて計画作成をしている。職員の担当制を取り入れており、毎月1回、管理者、ケアマネジャー、担当職員でサービス担当者会議を開催して計画の検討をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間を1年として見直しを行っている。状態の変化などがあつたときには随時見直しをすることとしているが、今までに見直しの例はない。	○	状態が安定している入居者に対しても、新鮮な目で本人や家族の意向や状況を確認しながら、職員がキャッチする最新の情報や気づき、ケアのアイデアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくためにも見直し期間の検討を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や外出、美容室の利用など、本人の希望に応じて柔軟に対応するよう努めている。また、ハーモニカ、おし花、ちぎり絵、読み聞かせ等のボランティアを数多く受け入れ、楽しみごとの支援もしている。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師である理事長が週1回回診してくれる体制になっている。慢性疾患等のかかりつけ医がある方については、家族と連携しながら服薬・症状変化の情報提供など適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、法人の特別養護老人ホームに移動するなどしており、今のところ重度化や終末期にホームで過ごすことは想定されていない。	○	本人・家族がホームに住み続けたいと希望したときに、その思いにどのように応えていくのか、全職員で話し合いを重ね、ホームとしての方針を確立していくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護には気を配っており、記録は関係者以外通らない事務スペースの書棚に保管している。また、数多くのボランティアが訪れているが、個人情報やプライバシーについては留意するよう話をしている。職員は、膝をおって、入居者の耳元で話をするなど誇りやプライバシーに配慮した支援をしていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、レクリエーション、ボランティアの来訪など数多くの活動機会をつくっているが、参加は強制していない。訪問日も午前中に畑仕事をする方がいたり、午後はテレビを見たり、自室で過ごす方がいたり、それぞれ思い思いに過ごされていた。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、宅配業者を利用しているが、入居者が食べられないものときは、手元にある食材で対応している。また月1回のお好みメニュー、寿司などの出前なども取り入れている。レクリエーションの一環として月に2回は入居者と共におやつを作ったり、冬にはしもつかれ（郷土料理）を作ったりしている。食材を切る方など、役割はあるが、その時の状態を見ながら対応している。	○	職員は、一名が検食を兼ねて一緒に食事をし必要に応じて声かけなどのサポートをしている。その他の職員は、別室で弁当などを食べている。家庭的、という視点で、入居者と職員と一緒に同じものを食べる、ということも検討することを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除く、毎日、午後の時間帯に入浴を支援している。週3回は入浴をしており、毎日入浴する方もいる（日曜日はシャワー浴又は清拭）。夜間浴を実施していたこともあり、希望があれば今後も対応する考えであるが、今のところは入居者が「疲れる」ということもあって現在の形に落ちついている。入浴の順番はローテーションにするなど配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、食事づくり、後片付け、洗濯物たたみなどの役割ごとや、ボランティアの協力も得ながら、ぬり絵・はり絵、おし花、楽器演奏にあわせて歌うなどの楽しみごとの機会を作っている。	○	はり絵やおし花などの作品を市の文化祭などに出品するなど、楽しみごとを張り合いにつなげていくような試みにも期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広く、梅・桜をはじめ多種多数の草木が植えられており、敷地内での散歩が十分楽しめるような環境になっている。近所の話好きのたばこ屋に買い物に出掛けたり、ワゴン車でドライブ・外出をしたりと行事的な外出も取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には玄関には鍵を掛けず、職員の見守りで対応しているが、不穏状態で安全性に心配があるときには一時的に鍵をかけることがある。敷地は広く、また庭にはベンチが置いてあったりと敷地内でも十分に楽しめそうであるが、敷地周りにはフェンスがあり、門には鍵をかけている。	○	地域の中でのグループホーム、という意味でも安全性に配慮しながら門についても鍵をかけなくてすむようになることに期待したい。これから運営推進会議が予定されているので、地域の方の協力もお願いしてみるなど見守りネットワーク構築の可能性を探ることも期待したい。

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	8月に入ってから、夜間想定で入居者と一緒に避難訓練を実施した。	○	今後更に、消防署にも協力を依頼しながら通報、初期消火訓練なども取り入れて定期的に訓練を実施していくことを期待したい。また、災害時にホームとして地域に貢献できることも検討しながら、地域の方々の協力体制についても検討していくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は宅配業者を利用しており、栄養バランス・カロリーなどが計算されたメニューになっている。食事・水分の摂取量を記録している。利用者の健康状態等に配慮しながら、高カロリー食の利用やみそ汁を半分にするなどの配慮もしている。入浴後に貧血になった方がおり、その時のアドバイスを踏まえて入浴後に加えて入浴前にも水分を摂っていただくようにした。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高くなっており、天窗からの採光にも配慮されたつくりになっているが、必要に応じて日中でも照明をつけている。換気が適切に行われており、気になる臭いなどもなかった。また、職員は入居者の耳元で話をしており、テレビなども含めて不快に感じる音はなかった。トイレにもエアコンがついており、冬場の寒い時期などの温度差への配慮もされている。共用空間のところどころに観葉植物や入居者のほり絵などが飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、ベッド・収納・洗面台があり、シーツ・枕もホームでリースのものを準備している。その他の家具や生活用品等の持ち込みは自由になっており、それぞれが過ごしやすいよう居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。